

立教大学 社会学部 産業関係学科

『経済情報論』

第2回: VoiceとExit、および無気力の心理学

いば たかし

井庭 崇

立教大学社会学部兼任講師

iba@tvr.rikkyo.ne.jp

この授業のねらい



- 経済社会の現在と未来を読み解くための新しい
視点を身につけることを目指す。

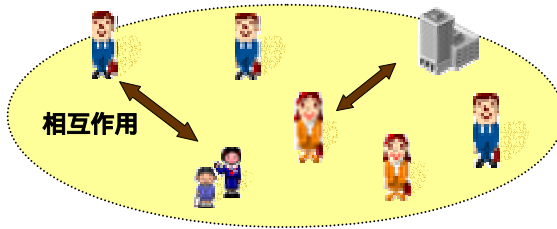
経済情報論

経済学ではなく、社会・経済にまつわる「情報論」

自律分散型の社会

 先週の復習

社会では、たくさんの人が、同時並行的に考え、行動し、コミュニケーションを行っている。そして、各人の考えや行動が、時々刻々と変化していく。



「複雑系」
(complex system)

インターネットの普及によって、
社会・経済のあり方が根本的に変わりつつある！



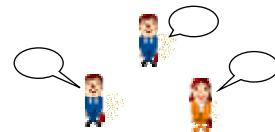
新しく生まれつつある経済

 先週の復習

- 従来は、さまざまな情報・評価が、「価格情報」に凝縮されて流通するとされてきた。



- 現在は、インターネット等を通じて、価格情報以外のさまざまな形式の情報が流通する。



『複雑系入門: 知のフロンティアへの冒険』
(井庭崇, 福原義久, NTT出版, 1998)



第I部 『複雑系』科学

- 第1章 『複雑系』とは何か?
- 第2章 『複雑系』科学の位置
- 第3章 『複雑系』科学の方法論

第II部 複雑性の現象

- 第4章 フラクタル
- 第5章 自己組織的臨界状態
- 第6章 カオス
- 第7章 カオスの縁

第III部 複雑適応系

- 第8章 複雑適応系
- 第9章 進化と遺伝的アルゴリズム
- 第10章 カウフマンネットワーク
- 第11章 ニューラルネットワーク

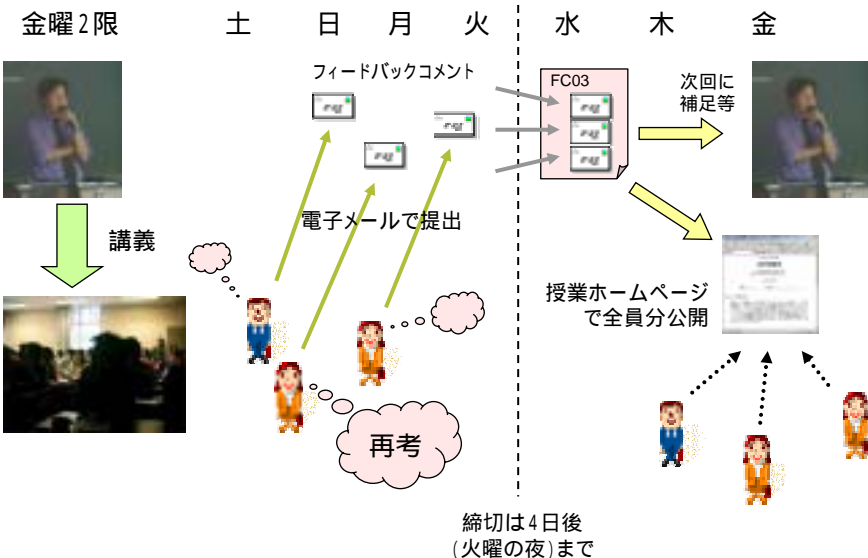
第IV部 『複雑系』科学のフロンティア

- 第12章 『複雑系』経済学
- 第13章 大工生命
- 第14章 カオス結合系
- 第15章 内部観測

第V部 『複雑系』研究への道標

- 第16章 『複雑系』科学の鳥瞰図

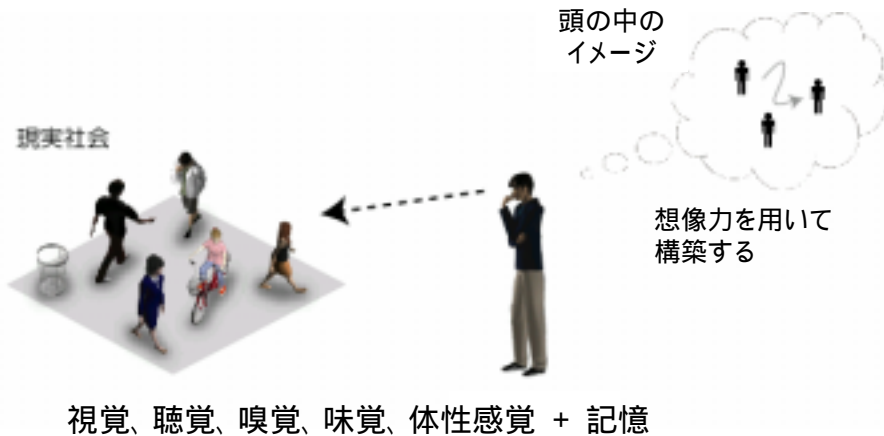
フィードバックコメント(FC)の仕組み



人間は想像力によって現実を認識



- 現実をそのまま知覚しているわけではない。



わかるという感覚

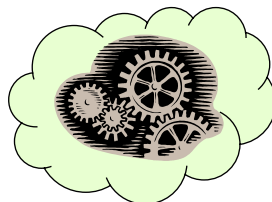


- 「わかる」とは「分ける」こと



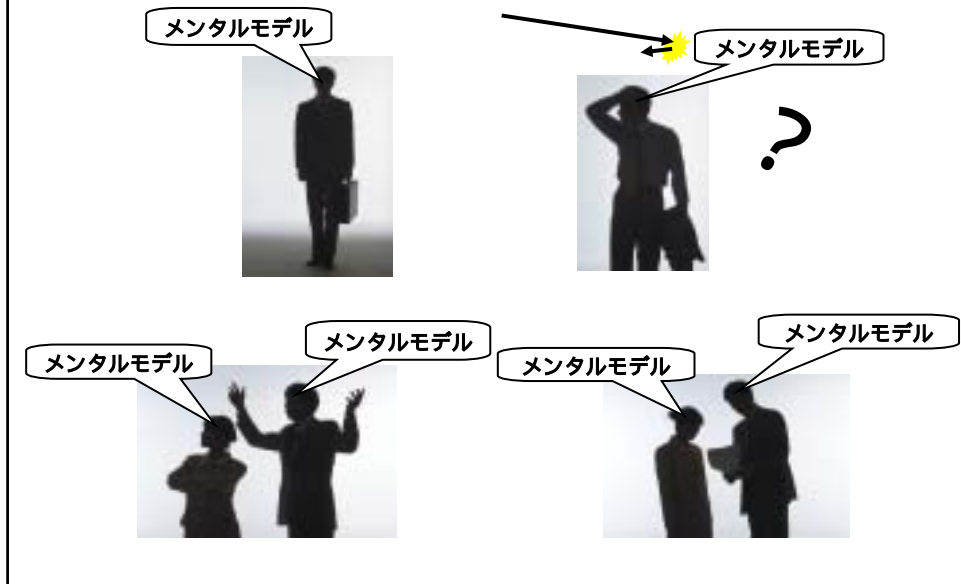
- 目の前の現象を、何らかの分類基準で分類出来れば、現象が整理できるだけでなく、心も整理される。=わかる

Seymour Papert



メンタルモデル

先週の復習



立教大学 社会学部 産業関係学科

『経済情報論』

第2回: Voice と Exit、および無気力の心理学

シンプルだけど強力な
「分け方」のひとつ！

いば たかし

井庭 崇

立教大学社会学部兼任講師

iba@tvr.rikkyo.ne.jp

社会・組織を変える力

Voice と Exit

Albert O. Hirschman

- 政治経済学者
- 1915 -
- 現在、School of Social Science, Institute for Advanced Study 教授
- 著書
 - 『経済学発展の戦略』
 - 『開発計画の診断』
 - 『組織社会の論理構造: 退出・告発・ロイヤルティ』
 - 『情念の政治経済学』 など

社会や組織の変革の力

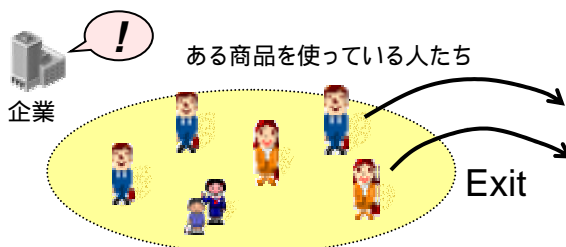
■ 社会や組織の変革の力として、次の二つの行動様式があるという見方を提示した。

- 「退出」(exit)オプション
- 「発言」(voice)オプション

『組織社会の論理構造: 退出・告発・ロイヤルティ』(ハーシュマン, ミネルバ書房, 1975)

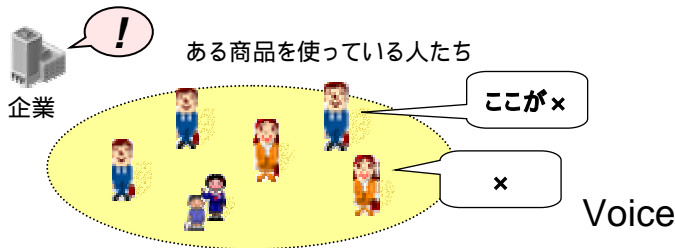
退出オプション

- 退出 (Exit) とは、
 - 不満のある商品や政党を選ばなくなる
 - 組織から脱退すること
- 度重なる退出によって、
 - 経営者や政党は自らの欠陥を間接的に知る。



発言オプション

- 発言 (Voice) とは、
 - 不満のある商品や政党、組織などへの異議を、直接あるいは世間一般に対して表明すること。
- 発言によって、
 - 経営者や政党は、自らの欠陥を直接的に知る。



経済学と政治学

- 経済学では、退出が注目されてきた。
 - 消費者は商品の価格が高いと思った場合には、買わなくなるというモデル化。
 - 退出は、その後の方向性に直接関与しない。
 - 簡単である。
- 政治学では、発言が注目されてきた。
 - 退出はあまり起こらず、多くの場合、発言の方が多い。
 - 発言は、新しい方向性に影響する。
 - エネルギーと時間を要する。
- ハーシュマンは、両者が歩み寄って、退出と発言を両方扱う政治経済学を発展させるべきだと提案。

退出と発言の関係

- 不満エネルギーの圧力が、退出によって発散されると、発言に必要となるエネルギーはあまり残っていないことになる。
- 「代替的な退出の存在は、告発技術の発展を萎縮させる傾向をもつ」 核心的な点
- この考え方は、後に、東ドイツの崩壊過程の分析を通じて修正される。

1949年から1988年の東欧

■ 退出の方が顕著だった国

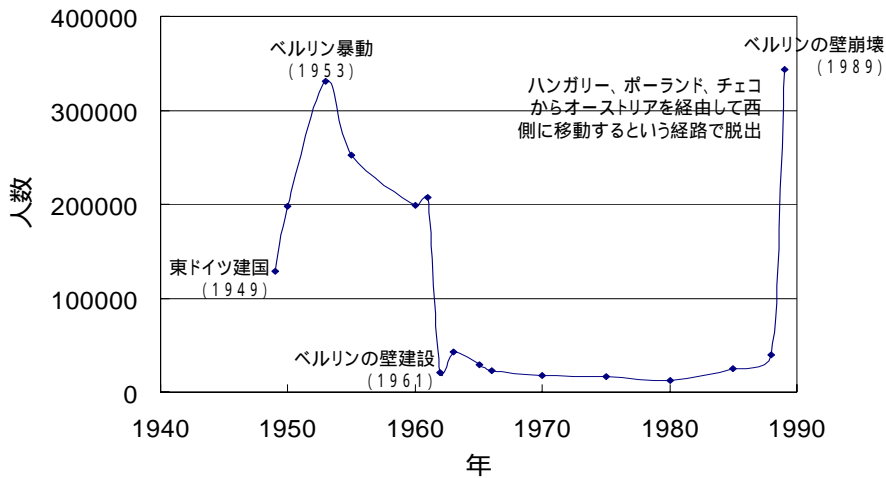
- 東ドイツ

■ 発言の方が顕著だった国

- ポーランド
- チェコスロヴァキア
- ハンガリー

ソ連と東ドイツに囲まれた地理的位置と、抵抗活動の伝統。

東ドイツからの亡命者・移住者数



Hirschman, A Propensity to Self-Subversion, 1995より作成

退出が発言に転化

- 1949年から1988年までの間、東ドイツでは、発言活動は活発ではなかった。
- 共産党政権が崩壊した1989年には、東ドイツでは、発言活動が顕在化し、退出と発言が共同的にはたらいした。
- 多数のバラバラな退出行動が、大規模な発言活動に転化した。
- さらに、報道機関によって国際的に放送された。
- 退出と発言は、両者が同時に作用し、相乗効果によって強烈化することがある、と理論修正された。

情報化とグローバル化の影響

- 退出が、より簡単になってきている。
 - 代替案(退出先)とその効果を知る機会の増加。
 - 代替案(退出先)も、ある程度同水準。
- 発言が、より簡単になってきている。
 - 個人による意見表明の容易化。
 - 物理的距離や生活時間の差異を超えたコミュニティの形成の容易化。

さらに新しい可能性も。

組織変革とは関係ないが...

- これまでは、現在存在しない商品やサービスについては、発言も退出もできなかった。
- インターネットの発展によって、存在しない・特定できない相手に対して、発言することが可能になった。



池袋に、「ウォーター・バー」
があったらいいなあ。

社会・組織を変えるのは人間

無気力の心理学

無気力の心理学

- 人々は生まれながらにして無気力なのではなく、社会的に後天的に無気力にさせられている。
- 無気力になると、
 - 動機づけ障害(学習・適応しようとする意欲が低下)
 - 認知障害(新たな事柄でもコントロール不可能だと考えてしまう)
 - 感情障害(元気がなくなり無感情になる)

社会に潜む無気力化のメカニズム

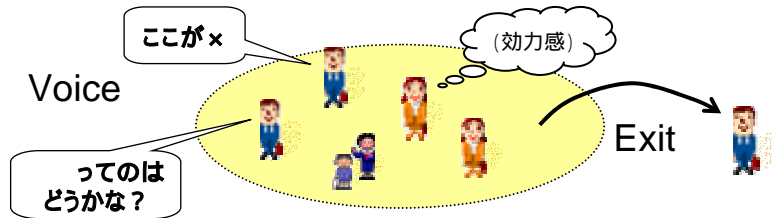
- コントロール感の喪失による無気力化
 - 自分の努力が成功に結びつかないという経験を何度も繰り返すと、状況に対するコントロール感を喪失して無気力になる。
- 行動と無関係な報酬による無気力化
 - 自分の行動と無関係に報酬を与えられると、無気力になる。

無気力から効力感へ

- 効力感とは、自分の行動によって目標の達成が可能であるという自信のこと
- 効力感をもつためには、自分の行動や努力によって環境を変化させるという成功経験を蓄積しなければならない。
- しかも、その行動や努力が他者からの命令ではなく、自分が主体であり発端であるという自律性の感覚が決定的に重要。

自己変革能力のある社会・組織をつくるには

- 退出 (Exit) と発言 (Voice) が機能するための仕組みをつくる。 社会システム
- 個々人の無気力を改善し、効力感を高めることを考える。 社会システムの構成要素



立教大学 社会学部 産業関係学科

『経済情報論』

第2回: Voice と Exit、および無気力の心理学

いば たかし

井庭 崇

立教大学社会学部兼任講師

iba@tvr.rikkyo.ne.jp

第2回フィードバックコメント

(10月3日)

金

土

日

(10月7日)

火

水

木

金



講義



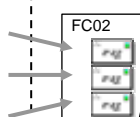
フィードバックコメント



電子メールで提出



【今回のテーマ】
・退出と発言の身近な例や経験談
・感想



次回に
補足等



授業ホームページ
で全員分公開



名前等とコメント
が公開されます。

分量は自由

第2回フィードバックコメントの送り方

■ アドレス(宛先)

iba@tvr.rikkyo.ne.jp

■ サブジェクト(題名) と 本文1行目

02DB123Z,山田太郎,FC02

↑ 学籍番号 (半角) ↑ 姓名 (全角漢字) ↑ FC (半角) ↑ 何回目の授業か (半角)

カンマ (半角)

今回は第2回の授業なので、02

■ 締切

■ 10月7日(火) 23時30分

経済情報論(第2回)

今日のテーマに関するおすすめの本・文献

- 『組織社会の論理構造: 退出・告発・ロイヤルティ』(ハーシュマン, ミネルバ書房, 1975) 残念ながら絶版
- 『東ドイツの崩壊とハーシュマン理論』(山川 雄巳, 立命館法学, 1996年1号(245号))
<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/cg/law/lex/96-1/yamakawa.htm>
- 『無気力のメカニズム』(宮田加久子, 誠信書房, 1991)
- 『無気力の心理学』(波多野誼余夫, 稲垣佳世子, 中公新書, 1981)

<http://www.cuc.ac.jp/~iba/lecture/rikkyo/>

明日以降アクセスできるようにしておきます

とりあえずの授業ページ